

広報誌の刷新に寄せて 所信を述べる

理事長 長谷川匡俊



本苑の広報誌が誌面を刷新して発刊することになりましたので、改めて理事長としての本法人に寄せる思いを述べてみたいと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、ワクチン接種の普及になお時間を要するなかで、本苑をご利用いただいている皆様やスタッフ諸氏のご不安と苛立ちを想うと、何ともやり切れない気持ちに襲われます。そして一日も早い平生の取り戻しを願うばかりです。

この間、ウイルスの感染リスクを背負いながら、日々利用者皆様の生活に寄り添い、業務の遂行に余念のない全てのスタッフ諸氏に、改めて敬意と感謝の意を表する次第です。

ところで私は、昨年の暮、例年のように忘年会を催すことがかなわぬなか、スタッフの皆様に向けてお話をする機会を持ちました。講題は「コロナ危機下で私たち専門職はいかに成長できるか」でした。コロナ禍における手痛い犠牲を無にしてはならない、との強い思いからです。その後本苑におけるかつてない窮状を想起すれば、この苦い体験こそ、今後の「成長」の糧となるに違いありません。最前線にあつて、献身的に取り組んでくださった皆さん、バックアップに協力してくださった皆さんに、本苑の底力を見た思いです。話題は変わりますが、私たちが担っている福祉や教育の仕事には、夢や希望が欠かせません。夢や希望は、それを抱く人たちにとつて、決して現状に甘んじることなく、より高い理想の方向へと向かわせる原動力となるからです。そのバネにならないような夢や希望は単なる夢想と言つてもよいかもしれません。抱き続けられ、きつと点火する時が来ることでしょう。どんな小さな夢でも語り合える職場には活力が生まれます。お互いに、そうした利用者の皆様に喜んでいただける、活力あふれた職場づくりに挑んで行こうではありませんか。

否かが、組織としての、あるいはチームとしての求心力ともなり、また遠心力ともなり得る分かれ目ではないでしょうか。そして、これこそが組織としての存在理由でもあるのです。

本苑は、法人こそ異なるものの、「福祉の淑徳」たる淑徳大学の分身であり、その地域展開であり、かつ実習教育の拠点施設であります。設立当初は、本苑も大学も、その設置の趣旨・目的を共有していたのですが、時の経過とともに両者の間に微妙な距離ができ、相乗効果を生むべき関係が機能不全に陥っている現状に、理事長として忸怩たる思いであります。もとより、それぞれの現場にあつては、差し迫る目の前の諸課題に追われ、そんな他人のことなど考えている余裕などない、と言いたい気持ちも分らないではありません。しかし、考えてみてくだい。原点を忘れないことなく、夢や希望、理想を追い求めて止まない組織こそが、さまざまな課題をポジティブに受け止め、サービスを利用される方々とそのご家族の要望に応え、信頼を得られるものだということを。

名は体を表す、と申します。今、まさに「共生苑」の成長と真価が問われているのではないのでしょうか。

社会福祉法人淑徳福祉会 広報誌

淑徳共生苑 だより 2021.6 No.53

社会福祉法人淑徳福祉会
〒260-0813 千葉県中央区生実町 2407-1
☎043-265-5526 (代表)
淑徳共生苑・淑徳共生苑短期入所生活介護事業所・淑徳共生苑通所介護事業所・淑徳共生苑認知症対応型通所介護事業所・淑徳共生苑在宅介護支援事業所／淑徳おゆみ診療所
〒260-0808 千葉県中央区星久喜町 1162-71
あんしんケアセンター松ヶ丘
〒260-0841 千葉県中央区白旗出張所
あんしんケアセンター松ヶ丘



新しい広報誌の作成にあたって

藤崎 正大

淑徳共生苑のオープニングスタッフとして新卒で働き始めた私も、現在はユニットリーダーとなり今年度は広報委員長になりました。

当初より広報委員として広報誌の作成に携わり、この度改めて広報誌としての在り方を考えております。

創刊号は職員一人ひとりのこれからの意気込みを掲載し、その後は主にご家族様向けに行事中心の広報誌を発行してきました。現在、コロナ禍にあつて行事もままならず各部署ごとの記事が中心となっておりますが今回で53号ともなり、広報誌も変化が必要と感じています。

今後はご家族様、関係者の皆様へ向けての発信は勿論、法人のアピールポイントはないのか、サービスの利用を検討している方や入職を考えている方にも魅力を感じていただけるような紙面づくりをしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



創刊号は 2007年3月発行でした

近況報告

施設長 林房吉

前年度は、経験したことのない困難な運営状況と、これまでとは違った施設生活環境を模索した一年でした。

まずは、新型コロナウイルス感染症への対処ですが、1月に集団感染が起き、約2か月間に渡り厳しい対策に終始しました。ご家族や関係者の皆様にはご心配をおかけしましたが、法人の総力を結集して一部のユニット内で抑え、最終させることができました。年間を通しては感染症対策のためご面会の制限をさせていただき、大規模な行事や様々な活動はほぼ休止、レクリエーションは職員が工夫を凝らし少人数で実施しています。

そのような状況下において、ありがたいことに入居者の皆様の入院日数は減少し、年間213日と例年の半分以下となりました。様々なことがありましたが、穏やかに過ごしていただけた入居者の方も多かったのではないかと思います。

令和3年度も引き続き感染症予防に全力を尽くしていきますが、嬉しい出来事として、併設の淑徳おゆみ診療所が開業して10年が経過しました。5月よりCTスキャナーが新しい機種に変更となり、より精密な診断を下せるようになりました。入所者の皆様の体調面にとって大変心強いことです。また、4月より給食委託業者が外食産業も幅広く行う「(株)グリーンヘルスケアサービス」に変更となっております。味付けや彩りなど食事内容を改善し、入居者の皆様や職員にも好評を得ています。

看護だより

新型コロナワクチン接種が始まりましたが、接種後も油断は禁物です。当苑では今後も感染対策を厳重に行ってまいります。

とはいってもこの感染流行はいつまで続くのでしょうか？ 気も減ってしまいますね。こんな時は日光浴をしてみませんか。太陽の光を浴びると「幸せホルモン」とも言われている脳内物質であるセロトニンが活性化されます。セロトニンは感情のコントロール、精神安定に良い効果があると言われています。また太陽の光を浴びると体内でビタミンDが作られます。ビタミンDはカルシウムのバランスを整え骨の健康を保つ効果があります。その他にもビタミンDはウイルスから身を守る免疫力を上げる効果があると言われていますが、それだけではありません。朝、太陽の光を浴びると体内時計を正しく整えることもできます。日光浴の時間帯は午前中がおすすです。1日15～30分程度行うと効果があるといわれています。夏場など日差しが強いときは熱中症にならないよう注意をしましょう。日焼けが気になる方には手のひら日光浴をお勧めします。手のひらを日に当てるだけで同じ効果が得られます。手のひらは体の他の部分と比べるとメラニン色素が少なく日焼けのリスクが低いのです。コロナ禍で太陽の光を浴びる機会が減っていませんか？ 太陽のエネルギーをかりて心も体もリフレッシュ！ 新型コロナを乗り切りましょう！！

古里山



日常のレクより。みんな真剣です！

スタッフは皆若く、明るく笑いの絶えない楽しいスタッフばかり、その中に六十代スタッフも一人いますが負けていません！利用者様の笑顔も多く、百歳を筆頭に九割が九十代という、長寿ユニットですが、楽しい雰囲気毎日過ごしています。

職員Tさんは、笑顔の少なかった利用者様の一様に対して、「可愛いー！」「大好きだよ！」を繰り返して声を掛けられています。つれなかった一様も、最近ではストリートな声掛けに「そうお〜？」と素敵な笑顔が増え、満更でもなさそうな様子です。

利用者様の「可愛さ」を見つげられるようになり、笑顔が増えて益々和やかなユニットです。

特養報告

大星 空

5月に百歳を迎えられた入居者様のお祝いの会を開きました。職員から寄せ書きとカチューシャ、可愛い動物のケーキをプレゼント。少し恥ずかしそうな、素敵な笑顔を見せてくださいました。ユニットではDVDを購入し、皆でラジオ体操を行っています。はじめはなかなか参加されなかった方でも、職員が隣で一緒に行ったり、促していく事で体操して下さる様子が見られています。毎日少しでも元気でいていただくために、これからも色々な活動を行ってまいります。



野名 原山

私たちのユニットでは四月に海鮮レクを行いました。まぐろ、えび、たまごなどお好みの食材を選んでご飯に乗せて出来上がり。豪華な海鮮丼に皆様、目が輝いていました。五月は母の日・お買い物レクを行いました。日用品をお店に見立てて並べ、プレゼントを選んでいただけます。カチューシャ、スカーフ、眼鏡立て、手ぬぐいなど・・・久しぶりのお買い物気分、「どれにしようか？」真剣な眼差しと、「あなたのそれ、いいわねえ」などいつもと違う笑顔がありました。新型コロナウイルス感染症対策のため、席をアクリル板で仕切るなど以前と比べると人との間に距離ができています。それでも入居者様同士の笑い声が聞こえるとほっとします。コロナ禍以前の生活に戻りたいと思うこともあります。今あるあたり前を大切に、日々業務に頑張っていきたいと思っております。



河川 大海

5月に母の日の行事を行いました。当日はテーブルをカーネーションで飾り、イチゴのケーキとティラミスをご用意。さらに職員が選んだ母の日の贈り物を入居者様お一人お一人にプレゼントさせていただきました。久しぶりに皆で歌を歌い、終始にぎやかな雰囲気、たくさんの笑顔が見られました。コロナ禍でなかなか思うような活動が出来ない日々が続いておりますが、感染症対策を徹底した上で季節感を楽しんでいただけるようなレクリエーションを企画していきたいと考えています。



野 秀 峰



コロナ禍において職員はマスクの着用や手指消毒、手すりの消毒を徹底し、食事の前には入居者様にも手指を消毒していただいています。行事などにも色々制限はありますが、天気の良い日にはウッドデッキで日光浴を兼ねて体操をしたり、季節を感じていただけるような創作活動も少しずつ行っています。三月には百二歳を迎えられた方のお誕生日をさせていただきます。感染症対策のため例年のように盛大にお祝いすることはできませんでしたが、大変喜んで下さいました。その方は「早くコロナがいなくなって、皆で外においしいものを食べにいききたいわねえ」とおっしゃっていました。早く皆様が元通り共生苑での生活ができるよう願っております。

